

## 2017年度ATI研究奨励賞選考報告

選考委員長 森田 清三

ATI研究助成は、35歳以下の若手研究者のナノサイエンスに関するチャレンジングな研究を奨励する目的で毎年公募し、10件程度の研究テーマを採択しています。ATIでは、研究の奨励をさらに促進するため、『ATI研究奨励賞』を設置し、計画が十分達成され、かつ優れた成果を出した若手研究者を毎年2人以内で表彰しています。第1回目の2014年度ATI研究奨励賞では、2012年度の採択テーマ12件よりトップダウン体制で書類審査を行い、2件の研究について奨励賞を授与することになり、6月の「研究報告会」にて授賞式と成果報告を行いました。第2回目となる2015年度ATI研究奨励賞からは、研究助成に採択された若手研究者から、ATI研究助成受領後3年以内に奨励賞申請書を出して貰って選考する自薦（ボトムアップ）方式に切り替えました。これは、研究成果のアピールを申請者本人に行って貰うことと、ATI研究助成による研究成果であることを自薦により直接確認するためです。ATI研究奨励賞受領済み者を除く合計20名の応募資格者から7件の応募があり審査した結果、同点で2位が2名となり、最終的に1位1人だけに2015年度ATI研究奨励賞を授与することが決まり、7月の「研究報告会」にて授与式と研究報告を行いました。2016年度ATI研究奨励賞では、ATI研究奨励賞受領済み者を除く合計29名の応募資格者からの7件の応募を審査した結果、1位（2012年度採択）の点数が2位（2014年度採択）や3位（2013年度採択）の倍以上で、また、2位と3位の点数が近いため、最終的に1位1人だけに2016年度ATI研究奨励賞を授与することが決まり、7月の「研究報告会」にて授与式と研究報告を行いました。

今回の2017年度ATI研究奨励賞では、2013年度採択者9名から4人（前回4人）、2014年度採択者10名から2人（前回1人）、2015年度採択者12名から2人の自薦があり、合計31名の応募資格者からの8件の応募を審査した結果、1位（2013年度採択）と2位（2014年度採択）の点数差が大きくないので、最終的に下記の1位と2位の2人に2017年度ATI研究奨励賞を授与することが決まりました。なお、2位の応募者は前回も応募していたが、今回は前回に比べて論文数が増加しており高い評価に繋がりました。なお、2017年5月16日の理事会開催に合わせて、中断していた研究助成報告会を復活して、「研究助成報告会、研究奨励賞授与式&報告会」を開催して、授与式と「研究報告」を行いました。

- 渡邊力也氏（東京大学講師）2013年度研究助成採択者  
「ナノセルを用いた膜蛋白質の物質輸送活性の1分子計測技術の開発」
- 大塚朋廣氏（理化学研究所研究員）2014年度研究助成採択者  
「超高速量子プローブによるナノデバイス中の電子輸送ゆらぎの研究」